

モモの栽培・防除暦（令和2年版）

生産履歴の記帳を怠らぬよう

農薬散布時は飛散防止に努めよう

月	旬	生育相	重点作業	対象病虫害	基幹防除	100% 当り 薬量	補完防除及び注意事項	散布量 散布日 記入欄
1			整枝・せん定	◎切り口及び傷口のゆ合促進	トップジンMペースト 原液塗布 (せん定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後)		※ 特に1cm以上の切り口には必ず塗布する	月 日
2			誘引	◎縮葉病、胴枯病 黒星病	石灰硫黄合剤 20倍	5%	※ 石灰硫黄合剤は、晴天無風日を選び、目を保護(ゴーグル)して、飛散に注意する	月 日
3	中 下	出蕾期 開花期	摘蕾、摘花 晩霜対策	◎せん孔細菌病	ムッシュホルト®-DF 500倍	200g	※ 農薬登録上の使用時期は開花前までだが、発芽前の散布が効果が高い	月 日
4	上 中 下	落花期 展葉期 生理落果期 新梢伸長期 一次摘果 ねん枝	人工受粉 芽かき 予備摘果 ねん枝	◎灰星病(花腐症状) ◎アフラムン類、 モモハモグリガ ◎灰星病、黒星病 せん孔細菌病 ◎アフラムン類、 モモハモグリガ ◎灰星病、黒星病 ◎せん孔細菌病	ロゾール水和剤 1,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 デランフロアブル 600倍 又はチオノックフロアブル 500倍 スミチオン乳剤 1,000倍 アンピルフロアブル(SBI) 1,000倍 パリタシン液剤5 500倍	100g 25g 166cc 200cc 100cc 100cc 200cc	※ 殺虫剤は開花期以降に散布する ※ 炭そ病・灰星病の被害果は園外に処分する ※ 花がら落としを徹底する ※ SBI剤は効果が高いが、連用すると耐性菌発生恐れがあるので連用しない	月 日 月 日 月 日 月 日
5		果実肥大期 新梢停止期(硬核期)	仕上げ摘果 ねん枝 袋掛け	◎灰星病、黒星病 ◎モモハモグリガ アフラムン類 ◎灰星病、黒星病 ◎モモハモグリガ、 アフラムン類	デランフロアブル 600倍 又はフルーツセイバー 1,500倍 アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 オンリーワンフロアブル(SBI) 2,000倍 オリオン水和剤40 1,000倍	166cc 66cc 50g 50cc 100g	※ デランフロアブルはせん孔細菌病にも効果がある。 ※ 灰星病は収穫20日前頃から果実への感染が多くなるため、品種に応じて防除 ○コスカシバ、シンクイムシ類、モモハモグリガ サムコルフロアブル10 5,000倍(収穫前日まで)	月 日 月 日
6	上 中	成熟期・収穫 ・はなよめ・さおとめ ・ちよひめ・山富士白鳳		◎灰星病、黒星病	アミスター10フロアブル (収穫前日まで) 1,000倍	100cc	○黒星病、灰星病 ○モモハモグリガ、アフラムン類 フルーツセイバー 1,500倍(前日まで) スタークル顆粒水溶剤 2,000倍(前日まで) ※ 雨天時の収穫は控える ※ 適期収穫に努める	月 日
7		花芽分化期(7~8月)		◎せん孔細菌病	ICホルト®-412 30倍	3.3kg	○モモハモグリガ ダントツ水溶剤 4,000倍	月 日
8 9		夏季せん定 台風対策					○せん孔細菌病 <台風通過前> ICホルト®-412 30倍 <台風通過後> スターナ水和剤 1,000倍	
10 11		落葉期	土壌改良資材施用 基肥施用					
12		休眠期	土づくり(堆肥施用)	◎カイガラムシ類	スプレーオイル 30倍	3.3%	○コスカシバ ラビキラー乳剤 200倍 (落葉後~発芽前《休眠期》) ・落ち葉は園外に持ち出す	月 日

注1) 令和元年12月4日現在の登録内容に基づき記載
注2) 農薬使用時期・使用回数等については別紙参照

施肥基準例 みかん秋ライト(13-9-8)(15kg袋)または
みかん秋6号(10-7-6)(20kg袋)使用の場合(10aあたり)

	生産量 1.0t	生産量 1.5t	生産量 2.0t
基肥(11月中旬)	3 袋	4 袋	6 袋
堆肥(落葉後)	完熟牛ふん堆肥 500kg	完熟牛ふん堆肥 500kg	完熟牛ふん堆肥 500kg

農薬登録内容が変更されている場合があるので、
農薬使用前には表示ラベルをしっかりと確認しましょう！

鹿児島県園芸振興協議会始良支部